

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社 評価基準研究所

② 施設・事業所情報

事業所名： 株式会社ホワイト 横浜西口保育園	種別： 認可保育所
代表者氏名： 小山田 誠二郎	定員（利用人数）： 48 名
所在地：〒220-0024 横浜市西区西平沼町4番1-W103号 ヨコハマタワーリングスクエア1階	
TEL：045-320-0304	ホームページ： https://nishiguchihoikuen/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日： 2023年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ホワイト	
職員数	常勤職員 14名 非常勤職員 16名
専門職員	保育士 11名 調理師 2名
	保育補助 3名
施設・設備の概要	（居室数）保育室6室、調乳室、事務室、医務室、調理室、更衣室、倉庫
	（設備等）各部屋冷暖房完備、トイレ、テラス

③ 理念・基本方針

- 1) 子どもも保護者も職員もみんな大切にされること
- 2) 子育て世帯と、子育て支援に関わる人が抱える困りごとを解決すること

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- 理念に基づき一人ひとりの子どもと保護者に寄り添った丁寧な保育を実施している
- 相互尊重と業務改善により、職員チームの良好な協働と働きやすさを実現している

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2025年8月1日（契約日）～ 年 月 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

特に評価の高い点

- ① 人に寄り添う姿勢が土台となった、あたたかく安定した保育の実践
「育ち合う」という理念に基づき、子ども一人ひとりの気持ちや育ち、また保護者や職員を含めた「人」に丁寧に向き合う姿勢が、園全体の保育の土台として根付いている。送迎時の対面でのやり取りや、相談内容に応じた担当者の配慮、家庭背景を踏まえた柔軟な支援など、日常の中で信頼関係を積み重ねる実践が随所に見られる。また子どもに対しても無理に導くのではなく、自然な関わりの中で見守っていく保育が大切にされ、一人ひとりの子どもの発達やその日の気持ちに応じた関わりや環境づくりが行われている。こうした積み重ねが、子どもが安心して過ごし、自分らしく育つことのできる安定した保育環境につながっており、本園の大きな強みであるといえる。

② 保育の質の追求と働きやすさを両立させる協働の取り組み

本園では「子どもも、保護者も、職員も。子どもと子どもにかかわるすべての人を大切にし、共に育ち合える保育園」と理念に掲げ、子ども一人ひとりを尊重した保育、保護者との信頼関係の構築、地域との関係づくりなど保育の質の向上を追求してきている。これと同時に園長自らがさまざまな業務改善に積極的に取り組み、職員は相互尊重の気持ちから良好な協働を生み出し、働きやすさ、業務のしやすさを同時に達成してきている。保育の質の向上は時として職員の負担増や疲労につながってしまうことがあるが、そうならずに無理なく自然に保育の質の向上と働きやすさと居心地のよさが実現しているのが本園の大きな特長である。本園の落ち着いた温かさ、園全体の一体感はこうしたことから生まれているのだろう。

③ 人と人、人と地域をつなぐ保育園

「子どもの足で歩ける範囲はすべて散歩エリア」と考え子どもたちは日々積極的に散歩に出、地域を知りその中で一步一步自分の世界を広げていき、自分という存在の根っこを太くしていく。またそうした園での経験を保護者に伝えることにより保護者も子どもに合わせて自らの住む地域を知り、つながりを持つようになる。県下でも屈指の都市部にある本園が、この場所で果たしている役割、つまり人と人、人と地域とをつなぐ役割はとても大きいものだといえる。こうした日々の保育に加え、地域での子育て施設の連絡会や行政との関わりを通じた他園交流などにも積極的に取り組んでおり、今後の発展もさらに期待される。「すべての人を大切にし、共に育ち合える保育園」という理念に基づいた本園の日々の保育や取り組みは地域の子育て家庭への大きな力になっている。

今後さらに期待される点

① 丁寧な日常実践を土台とした、現状の保育の言語化と共有

本園の保育は、日々の実践を大切にしながら、子ども・保護者・職員それぞれの状況に応じて柔軟に対応している点に特徴がある。苦情対応や相談支援、健康管理や安全管理においても、個別性を尊重した対応が行われており、園長や主任を中心とした組織的な支えが機能している様子がうかがえた。一方発展的な課題をいえば、今後園の理念や実践の背景にある思いや判断の視点を言語化し、職員間で共有していくことで、園としての方向性がより明確になる可能性がある。日常の丁寧な取り組みを土台に、振り返りや記録、計画への反映を重ねていくことで、保育の質がさらに可視化され、園全体としての強みが一層深まっていくことが期待される。

② 現状の環境を土台にした、さらなる物的・空間的環境の再構成と充実

一人ひとりを尊重した丁寧な関わりの中で、本園の子どもたちはしっかりと自分で遊びこむ力を身につけ、玩具なども適切に使い片付けることができている。そうした現状を土台にした発展的な課題をあげるとすれば、遊びの広がり意識したさらなるコーナーの充実や素材・配置の工夫など物的・空間的環境の発展だろう。今後、子どもの遊びの観察と振り返りをもとに、保育者自身の興味・関心も加味しながら、子どもの興味・関心を広げる新しい玩具や素材、遊び場の展開など環境の再構成をすすめることで、より主体的で豊かな遊びへとつながっていくと考えられる。現状の楽しさを土台にした発展、保育者自身の遊び心を生かしたさらなる工夫に期待したい。

③ 保育の中のアクティブなやりとりを残したにぎやかな保育空間の創出

保育者全員が共有する、一人ひとりの子どもの尊厳を大切に丁寧に関わろうとする姿勢により、本園の保育室は、いい意味で静かで落ち着いている。そして子どもたちも

自らの生活をきちんと理解し、生活の場をしっかりと使いこなしている印象だ。こうした良好な現状からの発展的な課題をあげるとすれば、「にぎやかさ」ということになるのかもしれない。保育者の思いやアイデアの自由な発信、子どもの活動の痕跡や集団での制作活動、継続的に取り組む遊びの場づくりなど、保育の中のアクティブなやりとりや心の動き、それにより生まれたものをもっとその場に残したままにしたり、写真や画像で保育室内に残していけば、それが次の活動へのエネルギーになり、保護者への保育発信にもなるだろう。保育者チームと子どもたちの協働に遊び心を加え、さらに魅力的な保育空間を創り出してほしい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

このたびは第三者評価を通して、本園の保育を丁寧に評価いただき、ありがとうございました。

子ども一人ひとりの気持ちや育ちに寄り添う姿勢、保護者や職員を含め「人」を大切に
する日常の実践、また保育の質の向上と働きやすさを両立させる協働の取り組みに
ついて評価をいただけたことを、大変ありがたく受け止めております。

本園では、「子どもも、保護者も、職員も。子どもと子どもにかかわるすべての人を
大切にし、共に育ち合える保育園」という理念のもと、日々の丁寧な関わりを大切に
してまいりました。今回の評価は、その積み重ねを認めていただいたものと感じてお
ります。

一方で、保育実践の言語化や環境構成のさらなる工夫、保育の可視化といった今後の
発展につながる助言もいただきました。これらを前向きに受け止め、日々の実践を振
り返りながら、園全体で共有と工夫を重ねてまいります。

今後も理念に基づき、地域の中で信頼される保育園であり続けられるよう努めてま
いります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり